「社是」

（1972年制定）

私たちは、お客様に信頼される、誠実な企業でありたい。
私たちは、取引先、株主、地域社会に信頼される、誠実な企業でありたい。
私たちは、社員に信頼される、誠実な企業でありたい。

セブン&アイ*HLDGS.* 企業行動指針

（1993年制定・2007年改訂）

前文

企業の使命は、経営倫理を尊重した経営により、お客様に価値のある商品とサービスを提供し、
新たな富と雇用を生み出すことにある。
セブン&アイ*HLDGS.*の役員および社員は、こうした使命を果たし、
お客様に喜んでいただくことを生きがいとしている。
このためにも健全な経営体質を確立し、法令・ルール、社会的規範を遵守し、
セブン&アイ*HLDGS.*が関わる全ての人々の人権と尊厳を尊び、
国際社会の多様な価値観を尊重しつつ社会的責任を果たす。
こうした理念のもと以下の指針に則って業務を行う。

経営倫理の尊重・法令遵守（コンプライアンス）

基本方針

事業運営に当たっては、経営倫理に即した企業行動に徹し、
法令・ルール、社会的規範を遵守し、
社会から求められる企業の社会的責任を果たす。

事業活動

1. お客様との関係…販売活動
2. お取引先との関係…取引活動
3. 株主との関係
4. 公正な取引の推進

社会的責任

1. 人権・個人の尊厳の尊重
2. 雇用・職場環境
3. 環境管理
4. 地域、社会との関係
5. 情報の管理

● 報告対象組織

（株）セブン&アイ・ホールディングス、（株）セブン-イレブン・ジャパン、（株）イトーヨーカ堂、（株）ミレニアムリテイリング、（株）ヨークベニマル、（株）セブン&アイ・フードシステムズの6社について報告しています。

● 報告対象分野

上記の報告対象組織について、「経済」「社会」「環境保全」という3つの側面に関する計画・実施状況・結果・今後の方針などを報告しています。

発行日について
今回の発行　2008年11月　　次回の発行予定　2009年9月

● 報告対象期間

2007年度（2007年3月1日～2008年2月29日）の活動報告を基本に、一部の取り組みについては2008年度の活動についての報告も含めています。

● 参考にしているガイドライン

GRI（Global Reporting Initiative）「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン第3版」

免責事項

本報告書には、（株）セブン&アイ・ホールディングスとその事業会社の過去と現在の事実だけでなく、社会情勢に関する予想、経営計画・経営方針とその結果への予測が含まれています。これらの予想・予測は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸与件の変化によって、将来の社会情勢や事業活動の結果が予想・予測とは異なったものとなる可能性があります。読者の皆様には、以上をご了解いただきますようお願い申し上げます。

CSRを経営戦略に組み込み
企業の高い持続可能性を追求します。

(株)セブン&アイ・ホールディングス
代表取締役会長
最高経営責任者(CEO)
鈴木敏文

(株)セブン&アイ・ホールディングス
代表取締役社長
最高執行責任者(COO)
村田紀敏

ステークホルダー・エンゲージメントを通して社会からの要請に誠実に応えていきます

現在、経済のグローバル化や地球の温暖化、さらに国内における少子高齢化、総人口の減少、食の安全・安心など、私たちを取り巻く環境は激しく変化し、これにともなって企業に対する社会からの要請もますます厳しくなっています。

こうした状況の中、セブン&アイ*HLDGS.*は、株主、お客様、お取引先、地域社会の皆様、そして社員など、さまざまなステークホルダーとのエンゲージメントを通して、社会的課題の解決に貢献するとともに、各事業会社が一体となって、お客様の立場に立った新しいサービス・価値を生み出す「新・総合生活産業」をめざしております。

グループ企業全体へのCSR活動の深化を目的にCSR統括委員会を設置

セブン&アイ*HLDGS.*は、CSR活動をグループ企業全体により迅速に推進・深化させるべく、2008年度からコンプライアンス委員会と環境委員会で構成される「CSR統括委員会」「リスクマネジメント委員会」「情報管理委員会」の3つの委員会制に変更しました。

CSR活動をさらに深化させるためには、各事業会社でのコンプライアンスの徹底、適切なリスク管理、さらに情報管理体制の強化を図るとともに、2007年度に策定・設置した「お取引先行動指針」や「お取引先専用ヘルプライン」を通して、お取引先とともにCSRを推進してまいります。

食の安全・安心の確保と地球温暖化防止への対策

セブン&アイ*HLDGS.*では、「食の安全・安心」が、お客様の間で最大の関心事となっていることから、セブン&アイ*HLDGS.*は、コンプライアンス委員会の下部組織にQC(品質管理)部会を設け、グループ間での情報の共有化と、緊急時対応体制を整備いたしました。そして、2008年8月に、生産者と共同で農業生産法人を設立。店舗からの食品残さを活用する「完全循環型」の生産システムを確立し、社会的に高まる食の安全・安心志向に対応してまいります。

また、これまで商品の開発・生産、物流、販売などサプライチェーン全体を視野に入れた環境施策を講じてまいりましたが、2008年6月に新たに「環境宣言」と地球温暖化防止に関する基本方針を策定しました。グループの環境施策を明確にし、グループ全体の包括的な活動へと発展させてまいります。

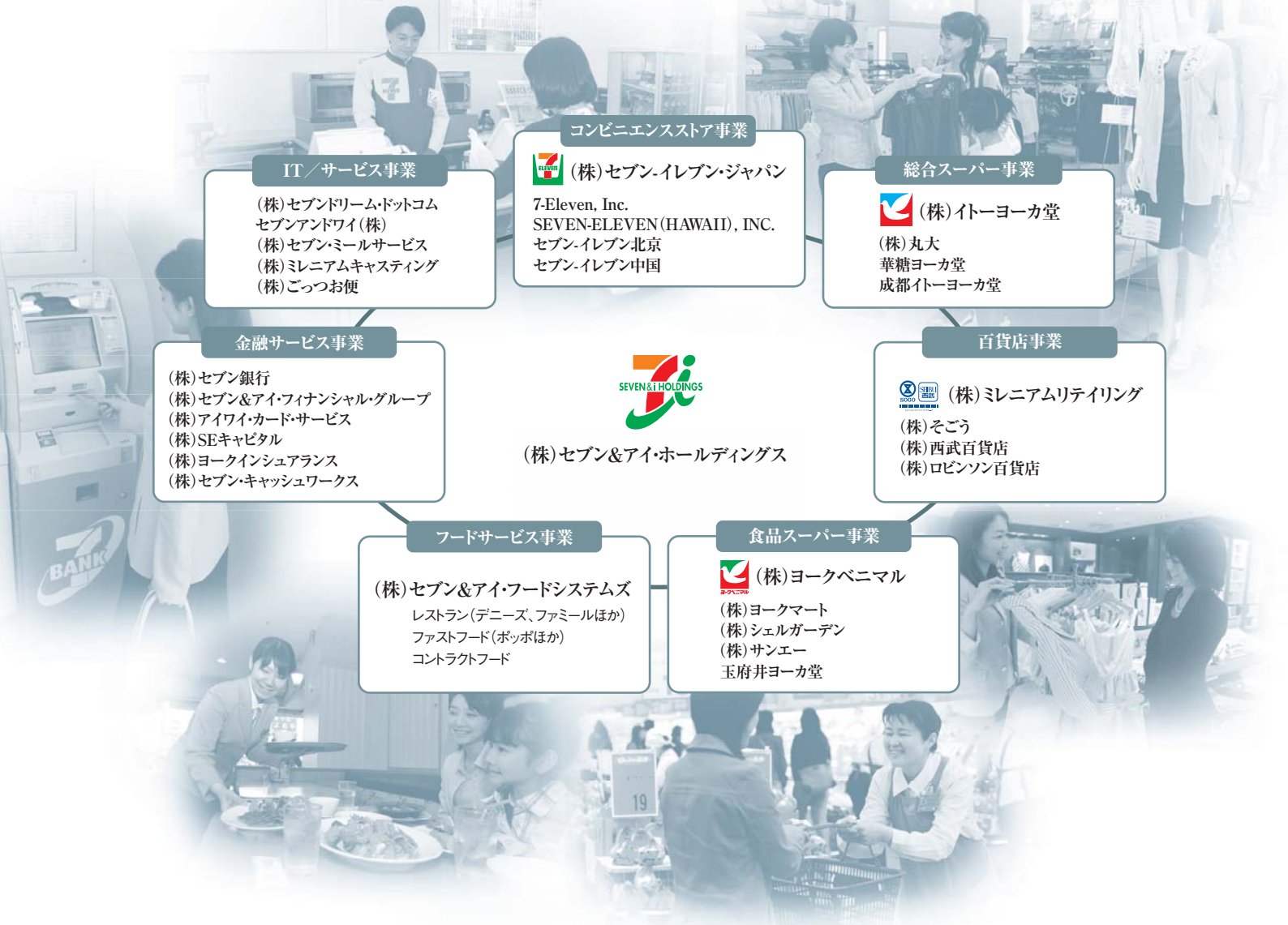
さらに地球規模での環境施策の一つとしてITTO※と連携し、森林保全によるCO_2排出抑制プログラムも2009年度に開始いたします。

セブン&アイ*HLDGS.*は、今後とも透明性の高い情報開示に努め、ステークホルダー・エンゲージメントを通して、「財務的成長」と「社会的側面の充実」の両立をめざしてまいります。

今後とも、皆様のご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

※ ITTO: 国際熱帯木材機関。

私たちは、小売や外食事業など
人々の暮らしに密着した事業を展開しています。



コンビニエンスストア事業
(株)セブン-イレブン・ジャパン
7-Eleven, Inc.
SEVEN-ELEVEN(HAWAII), INC.
セブン-イレブン北京
セブン-イレブン中国

IT／サービス事業
(株)セブンドリーム・ドットコム
セブンアンドワイ(株)
(株)セブン・ミールサービス
(株)ミレニアムキャスティング
(株)ごっつお便

総合スーパー事業
(株)イトーヨーカ堂
(株)丸大
華糖ヨーカ堂
成都イトーヨーカ堂

金融サービス事業
(株)セブン銀行
(株)セブン&アイ・フィナンシャル・グループ
(株)アイワイ・カード・サービス
(株)SEキャピタル
(株)ヨークインシュアランス
(株)セブン・キャッシュワークス

(株)セブン&アイ・ホールディングス

百貨店事業
(株)ミレニアムリテイリング
(株)そごう
(株)西武百貨店
(株)ロビンソン百貨店

フードサービス事業
(株)セブン&アイ・フードシステムズ
レストラン(デニーズ、ファミールほか)
ファストフード(ポッポほか)
コントラクトフード

食品スーパー事業
(株)ヨークベニマル
(株)ヨークマート
(株)シェルガーデン
(株)サンエー
玉府井ヨーカ堂

セブン&アイ*HLDGS.*は、セブン-イレブン・ジャパン、イトーヨーカ堂、デニーズジャパンの3社の共同株式移転によって、2005年9月に設立された純粋持株会社です。コンビニエンスストア、総合スーパー、百貨店、食品スーパー、フードサービス、金融サービス、IT／サービスという生活に密着した7分野を主要事業領域としており、現在、小売業を中心に約100社の事業会社を擁しています。

当社は、これら事業のシナジーを生かした流通イノベーションに取り組むことで、お客様一人ひとりの多様なニーズに応え、時代が求める新たな価値を創造する、グローバルな「新・総合生活産業」への進化をめざしています。

会社概要(2008年2月末現在)

社名	(株)セブン&アイ・ホールディングス
本部所在地	〒102-8452 東京都千代田区二番町8番地8
設立	2005(平成17)年9月1日 東証第一部上場
事業内容	コンビニエンスストア・総合スーパー・百貨店・食品スーパー・フードサービス・金融サービス・IT／サービス各事業などを中心とした企業グループの企画・管理・運営(純粋持株会社)
資本金	500億円
連結従業員数	153,128人
営業収益 営業利益	5兆7,523億円(2008年2月期連結経営成績) 2,810億円(同上)

今回の報告書では
「人々の暮らしに関わるCSR」に絞って報告します。

5つの主要事業会社※の事業特性をふまえて

セブン&アイ*HLDGS.*は、2008年度の報告書作成にあたり、小売や外食など人々の暮らしに密接に関わる自らの事業特性をふまえ、次の3つのテーマを優先報告事項と定め、「特集」として編集することとしました。

一つは、たび重なる食品事故によってお客様の不安や不信が高まっている「食の安全・安心」についてです。主要事業会社の売上高のうち、「食品」関連の売上が5割を超えるセブン&アイ*HLDGS.*にとって、食の安全は極めて重要なテーマです。

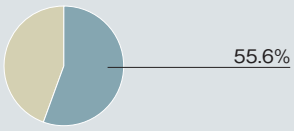
2つめは、京都議定書の第一約束期間の初年度を迎え、社会的な関心が高まっている「地球温暖化の防止」です。店舗数が増加傾向にある当社グループでは、CO_2排出量をいかに低減していくかが課題となっており、店舗における省エネや物流の効率化などの活動を継続的に行う必要があります。

そして、3つめは、「パートタイマーが働きやすい職場づくり」です。グループの主要事業会社の従業員のうち、パートタイマーが占める比率は7割を超えており、非正規従業員への公正な処遇が求められている中、働きやすい職場環境づくりは非常に重要なテーマです。

※ セブン-イレブン、イトーヨーカドー、ミレニアムリテイリング、ヨークベニマル、セブン&アイ・フードシステムズの5社。

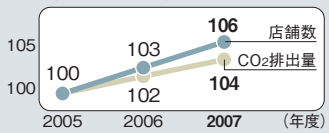
売上の5割以上が「食品」関連。品質管理や食品リサイクルは最重要課題です

主要事業会社5社の売上高に占める食品の割合



店舗数の増加に比例してCO_2排出量が増加しないように努めます

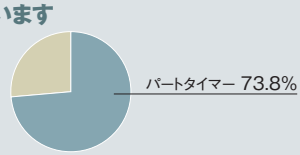
主要事業会社5社の店舗数とCO_2排出量の推移



※2005年度を100とする指数。

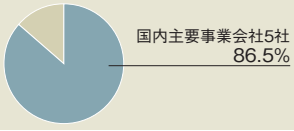
従業員の約7割がパートタイマー。多様な働き方を支援しています

主要事業会社5社の非正規従業員比率



グループの国内営業収益の8割以上を主要事業会社5社の売上が占めています

国内営業収益に占める主要事業会社5社の割合



CONTENTS

持株会社のCSR報告

多数の事業会社を管理・監督する持株会社として、「コーポレート・ガバナンスの強化」「コンプライアンスの徹底」は、グループの社会的責任を果たす上で基盤となるものです。また、グループ共通の課題に対する各種の施策も「特集」として報告しています。

持株会社としての責任① コーポレート・ガバナンス …… 6
持株会社としての責任② CSRマネジメント …… 8
持株会社としての責任③ コンプライアンス …… 10

特集①
食の"安全・安心"の徹底と循環型社会の構築 …… 14

特集②
低炭素社会をめざし地球温暖化防止の施策を推進 …… 18

特集③
パートタイマーにとって働きやすい職場づくり …… 22

主要事業会社のCSR報告

グループ共通の課題である「食の安全・安心」「地球温暖化の防止」の報告に加えて、各社の事業特性に応じた特徴的な取り組みを報告しています。

セブン-イレブン …… 26
イトーヨーカドー …… 40
ミレニアムリテイリング …… 54
ヨークベニマル …… 66
セブン&アイ・フードシステムズ …… 74

第三者意見 …… 84
第三者意見を受けて …… 85